

おやつのじかん3 -ちょっとひとやすみ-

—だいじょうぶ—

NO. 3



「だいじょうぶ。まずは落ち着こうね」と二人でその場で腰を下ろし、スマイル君の好きな本を隣りで読み始めました。前日くらいからよく眠れていなかったらしく、その日のスマイル君はどことなくコンディション不良。ちょっとしたことでスイッチが入ってしまったようで、突然の大泣き。ほとんどお話をしない彼に、微妙な気持ちを伝えるすべはなく、力いっぱい泣くしかなかったのでしょう。「このモヤモヤをどうにかしてくれよ！」と言わんばかりに、“じむしょ”に飛び込んできたのでした。他のスタッフからの報告で少し状況はわかっていたましたが、本人の顔にもそう描いてあったと思います。ものすごく激しいタッチでした。身の置き場がなかったのだと思います。

その本を何度くりかえし読んだでしょう。少しずつ落ち着いて、自分を取り戻しているようでした。スマイルが少し戻ってきました。「次はこれ読んで（唄って）」と、もう一冊を指さします。「もうだいじょうぶ」って、トンと私の腕に手を置きました。コンディションが戻ったわけではないと思います。でも、人と人との関係の中で、ちょっと立ち直れた時間だったと思います。

あの時“じむしょ”に聞こえていたのは、スマイル君の泣き声と私の言葉かけと絵本を読む声だけでした。でも、きっと目をつぶっていてもわかりましたよ。通じ合っているな、キミと会話をしているなって。あのとき、スマイル君に、人と向かい合う上でいちばん大切なことを改めて教えてもらいました。スマイル君は、多くは語らずとも人と豊かにキャッチボールができ、ゆっくりと、じっくりと、やりとりを楽しむことができます。“ことばよりも大切なことば”をたくさん持っています。芽を育てていきたいなと思います。

周囲の細かい変化に気づいて、細かいことにデリケートなのに、自分の微妙な気持ちは上手に伝えられない。そんな子どものモヤモヤした心模様を、どうすれば受け止めていけるだろうか？いつも考えることです。やっぱりそんなときは、ふかふかのソファに包み込まれるように心がハグされることが大切じゃないかな。あの何だかよくわからない「だいじょうぶ」って安心感です。「どうしたの?」「何があったの?」「そうだったんだね」と語り合うのは、そのあとですね。

ところで“あいさつ”って、いちばん気持ちのいいキャッチボールですよ。誰とでも無条件に交わされる、簡単でシンプルで返事のしやすいやりとりです。コミュニケーションを深めていくための“はじめの一步”が、もしかしたら“あいさつ”なのかもしれませんね。「おはよう!」「こんにちは」と元気に笑顔で声をかけ、その子がことばで応えられなくても、ことばに添えてハイタッチをしたり、肩を抱いたり。“キミとの今日が始まるよ”とスタートの合図です。「さようなら」と声をかけ、手を振ったり、頭に手をやったり。“また明日だね”と、今日に区切りをつけて次を楽しみにします。そんな小さなコミュニケーションが、嬉しいことの報告や苦しいときの相談のように、ここいちばんで向かい合いたくなかったときに生きてきます。



まあ、あいさつも交わさない人に、身の上相談もないですけどね。スマイル君も他の子ども達も、笑顔はいつでも本物です。大切なことを教えてくれています。(H28. 8) K